

JCII 標準化調査研究 成果発表会開催要旨

開催要旨

産業界から標準化が求められている「食品中の器具・容器包装由来成分の分析に関する調査研究」及び「高分子材料の耐久性評価技術に関する調査研究」について、弊機構が中心となり国・公共団体、業界団体等の専門家と共に「標準化調査研究企画委員会」で取り組んでおりますが、これまでに実施しました調査研究の成果を発表いたします。

(共通プログラム)

JCII 標準化調査研究 成果報告 1

タイトル：高速高圧抽出法を用いた食品用プラスチックの添加剤分析

概要：食品用プラスチックには、安定性の向上や機能性を付与するためにさまざまな添加剤が配合されている。その種類や配合割合等については不明な点が多く、それらを知ることは困難である。そこで、代表的な添加剤を配合した樹脂試料を作製して材質試験方法を種々検討した結果、高速高圧抽出装置を用いて材質中に残存する添加剤量を迅速で簡便に測定する方法を確立したので報告する。

JCII 標準化調査研究 成果報告 2

タイトル：リサイクルポリプロピレン材料の耐候性評価

概要：プラスチックの劣化は製品の事故原因の一つとして指摘されており、それらの評価・解析技術の開発についてのニーズは多いが、利用可能な手法やデータベースのような形では成果がとりまとめられていない。プラスチックの劣化要因は多くて複雑であり、劣化の評価は長期間を要する場合が多くて取り組みにくい課題である。一方、環境や資源保護のためにリサイクルが推進され、コストが低く環境への負荷を抑えた再生品は増加している。本研究では、プラスチックの劣化の中で先ず耐候性に着目し、工場内リサイクルを想定したポリプロピレン材料の耐候性試験を実施して劣化挙動を評価した。講演では、成形と粉碎の繰り返しや暴露試験が材料の物性値に与える影響を試験項目ごとに説明する。

(特別講演) 各会場の成果発表会で次の特別講演を予定しております。

第1回 大阪会場

工業製品の耐久性評価技術 – 長もちの科学 –

京都工芸繊維大学 教授, 長もちの科学研究センター長 西村 寛之 様

第2回 東京会場

高分子および複合材料の劣化メカニズムとその解析手法

群馬大学大学院教授, マテリアルライフ学会会長 黒田 真一 様